

評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572000521
法人名	特定非営利活動法人 こすもすの里
事業所名	グループホームこすもす
所在地	宮崎県児湯郡木城町大字椎木4007-2 (電話)0983-32-4197

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 7 月 29 日

【情報提供票より】(21年7月29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 23 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.4 人	

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ()円 <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(7月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 80 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	木城クリニック 高城歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは民家と田園に囲まれた中にあり、門扉を開放している。居間に続いてダイニングキッチンがあり、調理しながら利用者の見守りと対話が自然に出来ている。利用者と職員の語らいが穏やかである。食事を楽しむために、利用者の好みに沿った内容にするなど、細やかに配慮されている。運営推進会議出席を全家族に呼びかけて、家族等の意見を運営に反映しようとしている。重度化したり、ターミナル時のケアにも対応しようとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での地域交流、家族会の活発化、重度化の情報の入手体制、鍵をかけたケア、災害対策等に対して、運営者や職員共に改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員それぞれが自己評価した後、全体で共有し、課題に対し改善策を協議し、改善につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族が参加しやすいように3か月毎の夜に開催している。会議で提案された事項を基に、認知症理解の勉強会を地域で行う予定で検討を重ねている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営者は、家族と共に利用者を支援したいとの意向で、家族からの意見や相談等を受け止め運営に反映しようとしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の行事に参加したり、またホームの催し事に地区の参加を呼びかけたり、地域との連携づくりに努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者それぞれの生活が継続されるよう、また地域の福祉にも貢献することを謳った事業所独自の理念である。平成18年度法改正により理念の見直しがなされている。		これからも1年に1回は全職員で事業所の現状にあった理念の検討を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者と職員は定期的ミーティングに加え、日々理念の実践に取り組んでいる。例えば自立支援として、車椅子利用にならないように細やかに支援をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人クラブの作品展に出品したり、町や地区の行事や敬老会等に参加し、またホームの催し事に地域参加を呼びかけるなど地域との交流に努めている。		自治会加入の効果を認識しながら加入保留している。理念の「地域福祉に貢献」の具現と合わせて、これからも運営者、職員ともに継続検討を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員各自で自己評価した後、全体で共有し課題を出し、ミーティング等で改善策に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に家族が参加しやすいようにと、3か月毎の夜に開催している。会議ではホームの現状や取り組んでいること等を報告し、またメンバーからの質問に答え意見をもらっている。家族等の高齢も課題である。ホームの催し事に運営推進会議を行うなど、家族の参加を促す工夫が重ねられている。	○	さらに運営推進会議が充実し、2か月ごとの定期的な開催になるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が定期的に役場の担当課に出向き、ホームの現状報告等行い助言を頂くよう連携に努めている。また運営者は、認知症を理解する勉強会を家族や地域に対して行いたいと、町担当課に働きかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に利用者の状況を伝え、家族等の様子も伺うようにしている。来訪が困難な家族等には電話や手紙で伝えている。金銭管理状況もそれぞれに報告し、家族等の確認を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時に、意見や要望等を受け止め、運営に反映するように努めている。家族会の活発化も含めて、全家族に運営推進会議の参加を促すなど、意見が出せる場づくりがされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の交代時は特に言葉かけを多くして、利用者のダメージを防ぐように努めている。		前回評価時から今回まで、離職が重なった。運営者は人材確保の努力を続けていただきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員が段階に応じて外部研修を受講できるようにしている。職員は、受講後全職員と共有し、受講したことでケアの初心、基本に立ち戻り、利用者を尊重する気持ちが深まっていくと実感している。		
11	20	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、県グループホーム連絡協議会に加入し、研修及び交流に意欲的であり、また他市町の同業者訪問に管理者等を同伴させ、職員育成の機会にもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して利用開始されるようにと、ホームを見学してもらったり、生活されている利用者との交流や職員が家庭訪問をしたりして、納得しての利用に導いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との日常生活の中で喜怒哀楽を共にし、時には利用者から励ましてもらったり、地域の昔の生活の技術や生活文化を学んだりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、意向に沿うように努めている。普段表現の乏しい方が、来訪の乳児に関心を示された瞬間をキャッチした職員が、いかなる時も利用者から思いや意向が発信されているとの気づきを発見し、またその気づきを活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族等の思いや意向を基に、職員全員で介護計画を作成している。面談できない家族等には、計画書を郵送し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3か月に1回行っている。状態変化のある場合は現状に即して検討見直しを行い、家族の同意を得ている。研修で学んだケア記録方法内容を、さらに工夫し、端的に要を得た内容に改善して使っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物、墓参り等柔軟に対応している。遠方の家族等からの、ホーム宿泊の要望にも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者および家族等が、希望する医療機関に受診できるよう支援している。家族の依頼により職員が同行した時は、家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケア対応の方針である。職員は、ケアの不安について、訪問看護師からホーム内研修を受け対応している。必要に応じて地域包括支援センターとの連携も図っている。また、終末期を理解するための勉強会を家族とも行いたい意向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの生活歴や環境を尊重し、ことばかけ、態度、関わり方に配慮しながらケアに努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、一人ひとりの状態に応じて、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを尊重した個別の献立もあり、食事を楽しいものにと、工夫や細やかな配慮がされている。利用者の気持ちや意思を尊重し、準備や片づけを職員が共にしている。職員全員同じ物を一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕方に毎日入浴してきた長年の習慣に、隔日しか応じられない現状を、ホーム側は十分認識している。入浴しない日は清拭している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのできる状態に合わせて、調理や掃除、細工物、また以前は樫の実こんにやく作りを得意とされる利用者、樫の実を拾い集め粉碎したりなど、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、墓参りなど柔軟に支援している。運営者は、利用者それぞれに応じた日常の外出支援が出来ない現状を認識しており、散歩の日常化をすすめたい意向である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営推進会議において、メンバーから門扉に施錠するように意見され、全職員で協議し、ケアの試行で現在も門扉の開放を続けている。最近は散歩時など地域からの挨拶や声かけが増えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回避難訓練を行っており、地域や消防団等との協力を得るための連携づくりの途中である。	○	職員が夜間も安心して利用者のケアが出来るように、食料や水等の備蓄を含め、地域の協力体制や実地訓練の回数が増えるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の確保、体重の維持などの支援がされている。一人ひとりの嗜好や状態に応じた献立である。(カレーライスの際に、カレーの嫌いな方には肉じゃがに変えるなど) 役場の栄養士から助言指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は自然採光の柔らかさがあり、台所と居間は通しで風が通り抜ける造りである。利用者合作の季節に応じた紙細工など飾られている。利用者と職員の語らいや動作が穏やかである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者のなじみの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		